

千葉教育

千葉の子どもたちの未来のために

蓮

平成29年度
No.644

6・7月

特集 新学習指導要領特集Ⅰ ～これからの英語教育～

○シリーズ 現代の教育事情

千葉大学教授 NHK ラジオ「基礎英語2」講師 西垣知佳子
文部科学省初等中等教育局国際教育課 直山木綿子
県教育庁教育振興部指導課
流山市教育委員会

○提言

千葉市動物公園長 石田 戡



千葉県総合教育センター

目次

千葉教育 蓮 No.6 4 4

◆学校自慢

保護者と地域に見守られた安心・安全なこども園

習志野市立東習志野こども園長

石毛 美和

◆提言

動物公園の使い方

千葉市動物公園長

石田 戡 …2

シリーズ！ 現代の教育事情 新学習指導要領特集Ⅰ～これからの英語教育～

■「通じる英語」のための「使える英語」の教育 千葉大学教授 NHK ラジオ「基礎英語2」講師 西垣知佳子…4

■新時代の英語教育 文部科学省初等中等教育局国際教育課 直山木綿子…6

■千葉県の英語教育の推進 県教育庁教育振興部指導課…8

■未来に活躍できる子どもたちを育てるために～流山市の英語教育～ 流山市教育委員会 10

私の教師道

■学校を創る 学校教育目標「自己肯定感をもった生徒の育成」の実現のための組織的な取組 成田市立玉造中学校長 寒川 晃士…12

■学校を支える 笑顔あふれる学校に向けて～職場の協働を目指して～ 県立袖ヶ浦特別支援学校教頭 富永 裕之…14

■学校を動かす 学校組織の一翼を担うということ 野田市立みずき小学校教諭 石垣 幸子…16

■研修を生かす 研究主任として学校運営に携わる 船橋市立宮本中学校教諭 森 貴俊…17

■授業を創る “いま”に目を向け、“未来”を展望する社会科授業づくり～新聞記事の活用～八街市立笹引小学校教諭 佐藤 一馬…18

■子どもを知る 教師の役割～初任で学んだこと～ 野田市立中央小学校教諭 川口 耕司…20

■子どもを知る 子どもたちとの関わりの中で 勝浦市立勝浦中学校教諭 玉谷 峻平…20

活・研究 長期研究生からの報告

■小学校編 小学校歴史学習における価値判断授業の可能性 習志野市立藤崎小学校教諭 稗田 隆二…21

■小学校編 特別支援学級と交流学級の児童相互のコミュニケーション能力を育む支援の在り方 香取市立佐原小学校教諭 福井 浩子…24

■特別支援学校編 日本の伝統音楽に親しませるための題材開発の試み 富山学園南房総市立富山小学校教諭 高梨ひとみ…27

～小・中学校の学びの連続性を意識した等の指導を通して～

情報アラカルト

■平成 29 年度学校教育指導の指針について 県教育庁教育振興部指導課…30

■高等学校における「通級による指導」 県教育庁教育振興部特別支援教育課…32

■第 12 次「千葉県体育・スポーツ推進計画」 県教育庁教育振興部体育課…33

■体験型校内研修ガイドブック「すぐに使える校内研修の手法とツール」 県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当…34

学校 NOW！

■学校歳時記 次期教育課程の「理解・徹底」を 教育創造研究センター所長 高階 玲治…36

■笑顔がいっぱい 「やさしいこころ」で「育てる生徒指導」 市川市立市川小学校教諭 吉田 航…38

◆千葉歴史の散歩道

房総半島文化財めぐり～千葉県が誇る「海の幸」文化～ 文化財課指定文化財班・文化財主事 水野 大樹

道 標

新学習指導要領特集Ⅰ～これからの英語教育～

主体的に向き合い、かかわり合う「生きる力」の育成を掲げた新学習指導要領が今年3月に告示された。初めて、小学校高学年において、教科としての外国語科が実施されることとなった。小学校中学年においても外国語活動が実施され、中・高学年ともに年間35単位時間増（1単位45分）となる。

「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」(平成26年9月26日)では次のように述べている。「小学校中学年への外国語活動の導入は、英語学習に対する動機づけや、聞き取り、発音の向上に効果があったものの、その一方で小学校高学年では、抽象的な思考力が高まる段階であるにも関わらず、外国語活動の性質上、体系的な学習は行わないため、児童が学習内容に物足りなさを感じていた。ただし、音声を中心に体験的に理解を深めることは、高学年よりも中学年の

ほうが児童の発達段階により適していると考えられている。」このことから言語能力の育成には、発達段階に応じた系統的な指導が大切だといえるだろう。

今回の改訂では、小・中・高等学校を通じて外国語教育の充実を図ることが示され、今後、補助教材の検証や新教材の開発が検討されていく予定である。県指導課の調査（平成28年10月）によれば、本県でも平成30年度からの先行実施について、全体の7割を超える小学校が一部実施も含め、実施すると回答している。今後、外国語科の本格実施に向けて、教員一人一人がその力量を高めていくために、どのような準備をすればよいのであろうか。将来、国際社会で活躍する人材を育てるために、発達段階に応じてどのような目標を設定し、カリキュラムを編成していけばよいのか、具体的な取組を含めて考察していきたい。